

第36回 積算書を使ってみよう(その②)

※ このテクニカル講座は、Ver 4.01a を基に作成しております。


前回のテクニカル講座では、積算書データの作成について解説していききました。
今回は、作成した積算書データをマクロを使って、明細書の並び替えや工事名の入れ替えなどを行う方法、積算書データをCSVファイルへの出力する方法を解説します。
また、積算書に追加するために必要な【部材単価登録】プログラムの登録方法について解説していきます。

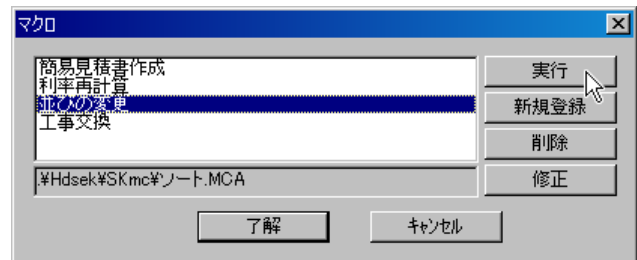
Step 1 マクロの実行

マクロを使って、明細書の並び替えや工事名に入れ替えを行ってみましょう。

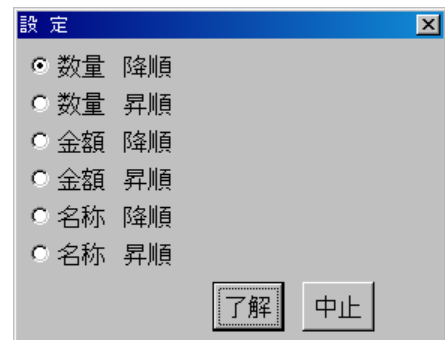
■ 01. 並びの変更

各工事名の明細票の並びを変更するマクロです。並びを変更する工事名を選択し、明細表を表示させます。

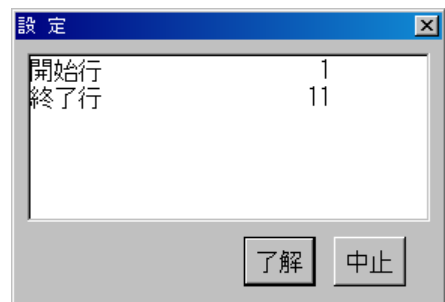
 (マクロ) をクリックします。
[マクロ] ダイアログが表示されます。
[並びの変更] を選択し、[実行] ボタンをクリックします。



[設定] ダイアログより並び替えの条件を選択し、[了解] ボタンをクリックします。



次に、[設定] ダイアログより、並び替えを行う [開始行]・[終了行] を設定し、[了解] ボタンをクリックします。



並べ替えられました。

No.	名称	摘要	数量	単位	単価	金額	発注先	部材コ
1	仮設電気		1.00	式	34,000	34,000	電気店	h00-01-01
2	仮設水道		1.00	式	37,000	37,000	水道...	h00-01-01
3	養生		173.99	m ²	500	86,995	大工店	h00-01-01
4	美装		173.99	m ²	480	83,515	美装店	h00-01-01
5	水盛遣方		89.00	m ²	300	26,700	基礎...	h00-01-01
6	現場清掃費		173.99	m ²	890	154,851	美装店	h00-01-01
7	仮設事務所損料		1.00	式	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
8	仮設便所損料		1.00	式	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
9	仮設出入口設置費		1.00	箇所	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
10	内部足場		173.99	m ²	780	135,712	大工店	h00-01-01
11	移動足場		173.99	m ²	780	135,712	大工店	h00-01-01

No.	名称	摘要	数量	単位	単価	金額	発注先	部材コ
1	移動足場		173.99	m ²	780	135,712	大工店	h00-01-01
2	内部足場		173.99	m ²	780	135,712	大工店	h00-01-01
3	養生		173.99	m ²	500	86,995	大工店	h00-01-01
4	美装		173.99	m ²	480	83,515	美装店	h00-01-01
5	現場清掃費		173.99	m ²	890	154,851	美装店	h00-01-01
6	水盛遣方		89.00	m ²	300	26,700	基礎...	h00-01-01
7	仮設事務所損料		1.00	式	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
8	仮設便所損料		1.00	式	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
9	仮設出入口設置費		1.00	箇所	50,000	50,000	鉄骨...	h00-01-01
10	仮設水道		1.00	式	37,000	37,000	水道...	h00-01-01
11	仮設電気		1.00	式	34,000	34,000	電気店	h00-01-01

■ 02. 工事交換

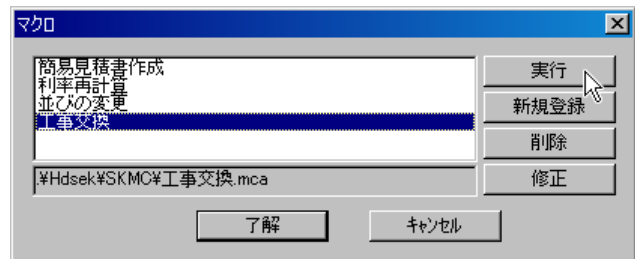
工事名とその工事名の明細を交換します。



(マクロ)をクリックします。

[マクロ]ダイアログが表示されます。

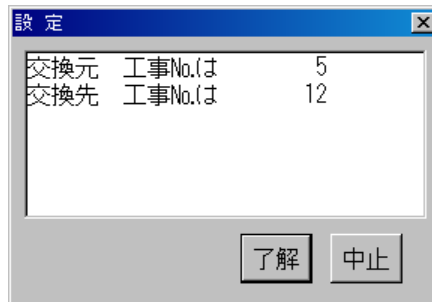
[工事交換]を選択し、[実行]ボタンをクリックします。



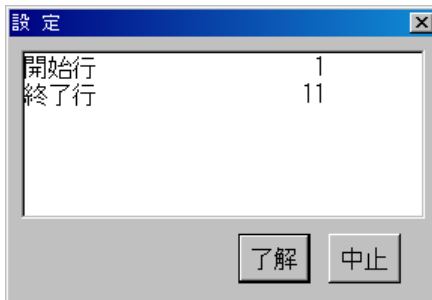
[屋根工事]と[内装工事]を交換します。

[設定]ダイアログより[交換元]と[交換先]の工事No.を設定します。

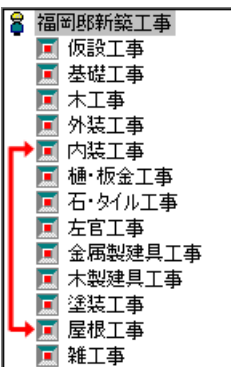
※ 工事No.は、1から順番に割り当てられます。



次に、[設定]ダイアログより、並べ替えを行う[開始行]・[終了行]を設定し、[了解]ボタンをクリックします。



入れ替えられました。



Step 2 CSV ファイル入出力

作成した積算書データを GSV 形式のファイルに保存することができます。CSV 形式のファイルに保存することで、Microsoft Excel などの表計算ソフトで編集できるようになります。また、Microsoft Excel などで編集した CSV 形式ファイルを、積算書データに読み込むこともできます。

※ CSV 形式ファイルとは、カンマ(タブなど)で区切ったテキストファイル形式です。

■ 01. GSVで保存

積算書データを GSV 形式のファイルに保存してみましょう。

[ファイル]メニュー／[CSV(カンマ区切り)で保存]を選択します。

[CSV 出力]ダイアログが表示されます。

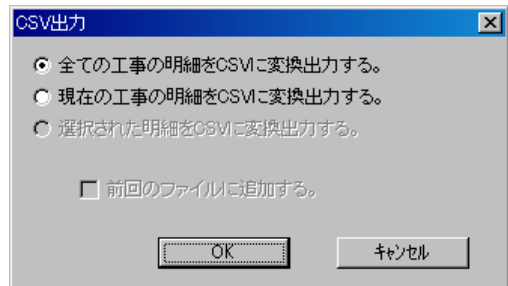
CSV 出力の方法は3通りあります。

1. 全ての工事明細を出力
2. 現在の表示させている工事明細を出力
3. 選択部分を出力

※ 明細を選択しておく必要があります

出力する内容を選択し、[OK]ボタンをクリックします。

ファイル名を指定し保存します。その時の保存場所の初期値は「Datavg」、ファイルの拡張子は「CSV」になります。



◆ 前回のファイルに追加する

CSV 出力方法の 2、3 を選択した場合、前回保存した CSV ファイルに追加することができます。

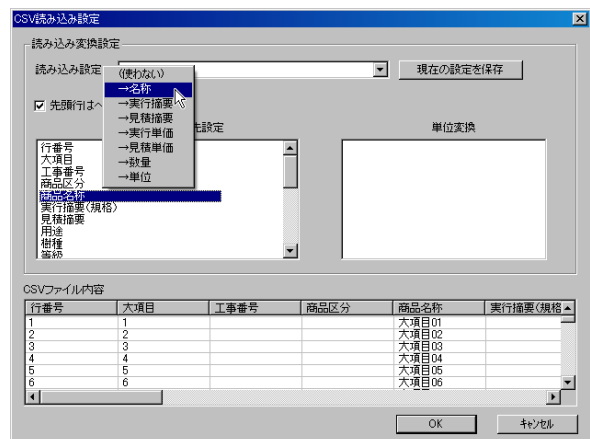
■ 02. CSVを開く

CSV 形式のファイルを開いてみましょう。

[ファイル]メニュー／[CSV ファイルから開く]を選択します。[ファイルを開く]ダイアログより開く CSV ファイルを選択して開きます。

[CSV ファイル読み込み設定]ダイアログが表示されます。

※ 先頭行に表の見出しが表示されている場合は、[先頭行はヘッダ]をチェックすることにより、データ保存先の設定が容易になります。



[データ保存先]リスト内で、CSV ファイルの内容のどの列をどの項目として保存するかを設定します。

列の名称(番号)をダブルクリックまたは右クリックし、保存先のリストから選択します。

データの保存先を設定したら、[OK]ボタンをクリックします。



※ 設定したデータ保存先の内容を記録しておくことができます。[読み込み設定]に設定名称を入力し、[現在の設定を保存]ボタンをクリックします。

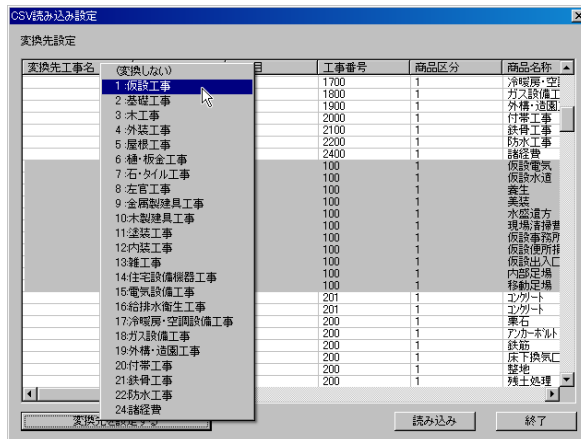
[CSV 読み込み設定]ダイアログが表示されます。どの行のデータがどの工事名の明細かを設定していきます。

設定する行を選択し、[変換先を設定する]ボタンをクリックします。リストから工事名を選択します。

※ 複数行選択すれば、一括で工事名を設定することができます。

設定が終了したら、[読み込み]ボタンをクリックします。

CSV ファイルが読み込まれ、積算書データが表示されます。



Step 3 部材単価登録システム

積算書の明細追加に使う、【部材単価登録システム】の登録をしましょう。



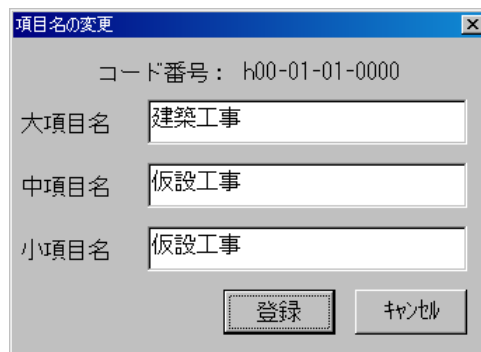
【部材単価登録システム】が起動され、[項目選択]ダイアログが表示されます。

大・中・小項目から項目を選択し、[開く]ボタンをクリックします。

選択した項目の部材単価が表示されます。



※ 項目名称を変更するときは、[項目名称変更]ボタンをクリックします。
[項目名の変更]ダイアログで各項目名を設定して、[登録]ボタンをクリックします。



■ 01. 単位の登録

単位を登録します。



／[単位の登録・設定]を選択します。

[単位の登録]ダイアログが表示されます。
登録するリストを選択し、[単位]を入力し、[登録]ボタンをクリックして登録します。

登録が終了したら、[了解]ボタンをクリックします。



※ 「kg」～「畳坪」は、(財)建築物価調査会の情報を元に標準登録されていますので登録することはできません。

■ 02. 発注先データの設定

発注先データを設定します。

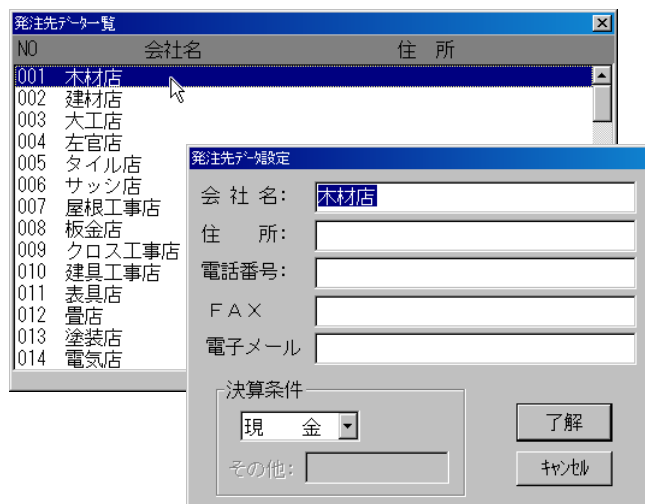


を選択します。

[発注先データ一覧]が表示されます。

設定する発注先のリストをダブルクリックします。

[発注先データ設定]ダイアログが表示されます。各種項目を入力して、[了解]ボタンをクリックします。



■ 03. 部材単価の追加

部材単価を追加登録します。

部材単価を追加登録するには、まず「コード」から入力します。

空欄のコード部分をダブルクリックします。

部材単価が登録されているすぐ下の空欄を選択したときは、**続き番号**が表示されます。
一行あけて選択したときは、「5000」が表示されます。

登録するコードを入力して、**Enter** キーを押下して登録コードを確定させます。既に登録しているコードは入力できません。

18	h00-01-01-0018	部材	h00-01-01-0018
19	h00-01-01-0019	部材	h00-01-01-0019
20	h00-01-01-0020	部材	h00-01-01-0020
21	h00-01-01-0021	部材	h00-01-01-0021
22			0022
23			5000
24			

※ 部材単価登録をするときのコードは、5000番以降に登録してください。5000番より前に登録をすると、バージョンアップした際に、登録内容が消えてしまう可能性があります。

[部材名]・[摘要]・[単位]・[実行単価]・[見積単価]・[発注先名]を設定します。

[分類コード]を入力します。

[分類コード]とは、【自動積算拾い出し】をする時に、部材をどの工事名に分類するかを示すコードです。

[分類コード]には、工事No.を入力します。

※ 工事No.は、【積算書】プログラムで設定している工事名を1から順番に割り当てた数値になります。

また、[分類コード]で小計項目に分類することもできます。

小計項目に分類するときは、上2桁に工事No.、下2桁に小計項目No.の計4桁で分類コードを入力します。

例) 基礎工事(工事No.2)の1番目の小計項目に分類したい場合は「(0)201」と入力します。

キーを押下すると、「2-1」と表示されます。

- 福岡邸新築工事
- 1 仮設工事
- 2 基礎工事
- 3 木工事
- 4 外装工事
- 5 屋根工事
- 6 植・板金工事
- 7 石・タイル工事
- 8 左官工事
- 9 金属製建具工事
- 10 木製建具工事
- 11 塗装工事
- 12 内装工事
- 13 雑工事
- 14 住宅設備機器工事
- 15 電気設備工事
- 16 給排水衛生工事
- 17 冷暖房・空調設備工事
- 18 ガス設備工事
- 19 外構・造園工事
- 20 付帯工事
- 21 鉄骨工事
- 22 防水工事
- 23 諸経費

❗ 木材の小計項目分類について

構造図の、[土台]・[柱]・[小屋]・[屋根]で入力している木材の小計項目分類は、【自動積算拾い出し】プログラムの[初期設定]／[積算木材取得単価選択]で行います。

各部材ごとに、[積算書の格納小計項目]を設定しておきます。

この場合、【部材単価登録システム】で設定した分類コードは適用されません。


木材取得単価の選択

設定部材

部材	取得単価	長尺物カット	まとめ定尺長	積算書の格納小計項目
土台	一本単価	4.00m	4.00⇔3.00	構造材
大引	一本単価	4.00m	4.00⇔3.00	構造材
火打	一本単価	4.00m	4.00⇔3.00	構造材
根太	一本単価	4.00m	4.00⇔3.00	羽柄材
根太掛け	一本単価	4.00m	4.00⇔3.00	羽柄材
枠組床材	一本単価	4.27m	4.27⇔3.66⇔3.05⇔2.44	構造材

木材項目へ
構造材
羽柄材
造作材
新建材

了解 中止

部材単価の登録が終了したら、 [上書保存]を選択し、【部材単価登録システム】を終了します。

次回予告

外壁の仕上げを一部分変更する

2005/10/07 公開予定
See You Next Time